

## 玄田 有史講演会「私の希望のつくり方」

日時：2021年2月1日（月） 5・6限

玄田 有史（げんだ ゆうじ）

生年月日 昭和39年10月 島根県生まれ  
勤務先 東京大学社会科学研究所  
職名 教授  
学位 博士(経済学)  
専攻 労働経済学



### 略歴

1988年 東京大学 経済学部 卒業  
1995年 ハーバード大学 客員研究員  
1996年 オックスフォード大学 客員研究員  
2000年 学習院大学経済学部教授  
2007年 東京大学社会科学研究所教授 （現在に至る）

### 主な著書・編著

『仕事のなかの曖昧な不安』（中央公論新社、2001年、サントリー学芸賞、日経・経済図書文化賞）  
『ニート』（幻冬舎、共著、2004年）  
『希望のつくり方』（岩波新書、2010年）  
『14歳からの仕事道（しごとみち）』（イーストプレス、2011年）  
『人手不足なのになぜ賃金が上がらないのか』（慶應義塾大学出版会、玄田有史編、2017年）

### 生徒の感想①

今回の講演会で「失敗はおいしい」というパワーワードを頂きました。言われた直後は驚きましたが、挑戦して失敗することを恐れなくて良いということを書いてくださった時は、少し胸が軽くなりました。文化祭やその他の行事を考える中で、密を作らないようにするという制約の下では出来ないことが多く、「つまらない」と言われるのは仕方ないとは思いつつ、「辛いな」と思っていました。しかし、挑戦することの大切さ、失敗することの大切さを教えて頂いたので、これから自分がしていくことに自信を持って頑張っていきたいなと思います。この講演会を行うにあたって、事前に打ち合わせをする中で、どんなことを話せば良いのかすごく不安でしたが、多くの先生方から「良かったよ」と言われたので、嬉しかったです。

### 生徒の感想②

私が玄田さんのお話を聞いて、一番心に残ったのは「9勝6敗理論」です。私はいつも、完璧に仕上げなければいけないと思えば思うほど、その事をするのが嫌いになったり、やらなくなったりしてしまいます。でも、玄田さんがおっしゃった、「9勝6敗理論」のように、完璧すぎず、手を抜

きすぎず、でも平均より少し上を目指すという考え方にすごく感銘を受けました。とことん突き詰めて完璧にするのはとてもいいことだと思いますが、自分が「楽しく」頑張れる限界を目指すのも良いなと思いました。これからの人生を希望あふれるものにするために、何事にもポジティブに、失敗してもいいという気持ちで頑張ろうと思いました。

### 生徒の感想③

私が今日、この講演会を聞いて1番印象に残った言葉は、「『希望』はプロセスだ。」という言葉です。苦しい事を経験したこと人が前に向かって進んで行く時にあるものであって、そのときのプロセスもそうだというのがとても印象的でした。希望がないとやりがいを持ちにくいという結果があって、今に自分には希望があるものの、その希望が実現できるかがすごく不安だったけど、玄田さんの「無理だとわかって希望が変わっていくのはいい。」という言葉聞いて、将来、希望が変わってもいいんだと思い、すこし安心しました。

今は、自分が希望として思っていることに向かって「希望を自分の手で育てる」というのをやっていきたいと思います。もし、無理だと思ってしまったときに、自分がそれになりたかった原点にもどってまた、新たな希望を持っていけたらいいなと思います。

### 生徒の感想④

今回の講演会で私が1番心に残った言葉は、「悩んでも悩んでも決まらなければ、それはどちらも正解である。」という言葉です。私自身、これまでそれほど深く悩んできたことはなかったと思います。しかし、もし悩んで決めることができない状態があるのなら、それはどちらも正解であって、どちらを選んだとしても自分の頑張りようによっては正解だったと後から思えるのかもしれないと思いました。そう思えば、悩んでしまうことに悩むことも無くなって、価値のある悩み方ができる気がしました。

小さい頃からやりたいこともなくて、小さな目標を自分が置かれている中で立てていき、それを達成していきながら生きてきました。楽観的なのもかもしれませんが、死ななければ人生なんかなくなっていくとも思っていて、やりたいことがなくても思い悩むことはありません。もし、やりたいことがなくて悩むことがあれば、今日頂いたアドバイスを生かしていきたいです。

### 生徒の感想⑤

今、世界はコロナウイルスで沈んだニュースしか流れず、この状態がいつまで続くのかと不安に思い、希望を持つことが難しくなっていると思います。僕もその一人でした。昨年コロナウイルスによってたくさんの行事がなくなってしまい、来年には収束しているだろうと思っていたのですが、現在、緊急事態宣言が再発令され、延長されようとしています。今年も何も出来なくなるのかという不安があります。玄田さんはそういう時でも希望をつくるコツを教えてくださいました。まず、自分自身の夢や希望を「育てる」とおっしゃっていました。はじめは小さい夢や希望を育てていきながら、ずっとそれを持っていけば叶うんだと思いました。

生徒の質問に対して、「失敗はおいしい」とおっしゃっていました。それが良い経験になって自分自身を高めてくれるからです。自分は自信がなく、いつも失敗を恐れていましたが、「失敗はいい、大失敗を避ける」というつもりで、いろんなことにチャレンジしていきたいです。話し方も柔らかな感じで面白かったです。本もぜひ読んでみたいです。